

新晃工業

市場認知度上がる「健康空調」

安全な空気環境維持に貢献

空調機器の総合メーカー、新晃工業（社長Ⅱ末永聡氏、本社・大阪市北区）は、2021年3月期第3四半期（2020年4月～2020年12月31日）連結業績を発表した。それによると売上高は前年同期比19・0%減の2556億7900万円、営業利益同40・1%減の38億1千400万円、経常利益同38・4%減の41億7600万円、

純利益同33・0%減の31億500万円となった。通期業績については、先ごろ上方修正数値を公表した。修正予想売上高は385億円（2億円増）、営業利益60億円（10億5千万円増）、経常利益64億円（11億5千万円増）、純利益46億円（9億円増）。同社では「需要の端境期に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う建設工事の延期などの

需要減少を見込んでいたが、想定よりも影響は少なかった」としている。第3四半期累計期間の業界市況は、空調機の全出国荷台数が前年同期比約20%減となるなど厳しい局面が続いたが、こうした中で同社は、空気中の細菌やウイルスを除去する「健康空調」（登録商標）の営業展開や設計・生産ノウハウのデジタル化により、業務のプラッ

トフォームを再構築する「SIMA（シーマ）」プロジェクト推進に取り組んだ。取り分け、「健康空調」については、コロナ禍を契機とする室内空気環境に対する関心の高まりを背景に、市場での認知度が着実に上昇しているものだ。同社では「当初の需要先は総合病院等を想定していたが、ショッピングモールなど大空間におけるクリーンな空気の供給へと裾野が広がってきた。上流への訴求を強めながら認知度をさらに高め、拡販に取り組んでいきたい」（執行役員大阪支社営業開発部長・稲川健氏）とする。

「健康空調」は、不特定多数が集まる空間の空気を取り込み、超高出力の紫外線（UVC）ランプを照射することで浮遊細菌やウイルスを分解・除去し、浄化した空気を室内に供給する仕組み。搭載しているUVCランプの新型コロナウイルス感染症への有効性はすでに専門家によって認められている。4月には「健康空調力セット型ファンコイルユニット（FCU）」が追加投入される予定で、AHUからFCUのラインアップが安心・安全の空気環境を支える。